

ら、寺社をめぐり、平手政秀宅址に造られた志賀公園を経て、光音寺までの散策路。

造られた志賀公園を経て、光音寺までの



御深井燒窯址・元替燒窯址

旧練兵場が整備され、昭和24年に公園となる。一角に、尾張初代藩主徳川義直が築かせた御深井焼窯、明の婦人陳元娘の焼窯があった。

通称豪潮寺という。尾張 10 代藩主徳川 齊朝の命により、僧豪潮が愛知郡東郷村より文政 6 年(1823)にこの地に移した。名古屋城東門祈願所として栄えた。

主祭神は天之棚機姫命で、古書にも「例祭7月7日の夕は燈を掲げて諸人参詣す」とあり、大正頃までは七夕の短冊飾りも盛大で、技芸上達の祈願で雑踏した。藩政時代は、東照宮の管轄で一般人は柵外よりの参詣で例祭日だけ境内参拝を許された。



戦国時代、御深井宇多利に地蔵院として開山。慶長年間、名古屋城築城計画により田幡村の現在地に移された。達磨大師尊信の尾張4代藩主吉通公の厚遇を受け、達磨大師の少林寺に因み、少林山西来寺と改号。豪僧開田の逸話の山門は武家風門扉として有名。

起源は、弥生人渡来の時といわれ、延喜式神名帳にも「九州志賀の海（わた）神社と同例なり」と記され、志賀の地名もこれに由来する。織田信長から植先、平手政秀から信長改心祈願の手影りの狛犬一対が奉納されている。



織田信長のために諫死した平手政秀宅址を中心に造成された、廻遊式庭園の公園である。公園造成中、弥生式土器（揚り戸遺跡の一部）を多数出土し、弥生人渡来を立証し、考古学界で注目された。出土品の一部は、市博物館と金城小学校に展示されている。

一説に足利尊氏創建ともいわれる。庭の無縫塔は、室町時代のもといわれ、市の指定文化財である。女義太夫の名人豊竹呂昇の墓がある。



地下鉄
名城公園駅

50 m

①名塘公園

御深井焼窯址・元替焼窯址

550m

2004年11月

500mm

③多奈波太神社

300m

1.000mm

700m

→ ④少林山
西来寺

1,000m

1000

市代天
光復寺街